スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

奈良県王寺町

自 治 体 名 ： 奈良県王寺町
担 当 課 名 ： 学校教育課
電 話 番 号 ： 0745-72-1031

OJI TOWN
100th Anniversary

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	7.01㎢
人口	23,595人
公立義務教育学校数	2校
公立義務教育学校（後期課程）生徒数	667人
部活動数	22部活
地域クラブ活動数	1部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	王寺町立義務教育学校部活動地域移行等に係る検討委員会
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	現在策定中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

生徒数や教員数の減少に伴い、町内に2校ある義務教育学校において、生徒が希望する部活動を行うことができない状況となっている。また、部活動は、地域のスポーツ振興という点においても、学校における生徒指導面においても重要な役割を担っている。今回も昨年度に引き続きの休日部活動の段階的な地域移行に向けての実証事業として、両校の卓球部の希望者を募って、月1回実施した。また、両校の生徒が参加できるバドミントンクラブが新たに活動の受け皿として活動を開始いただいた。

今後、部活動の地域移行を進めていくにあたり、地域指導者が一貫して指導に当たる協力体制の構築と財政面での支援が重要であると考える。



王寺町立王寺南義務教育学校
畠田学舎



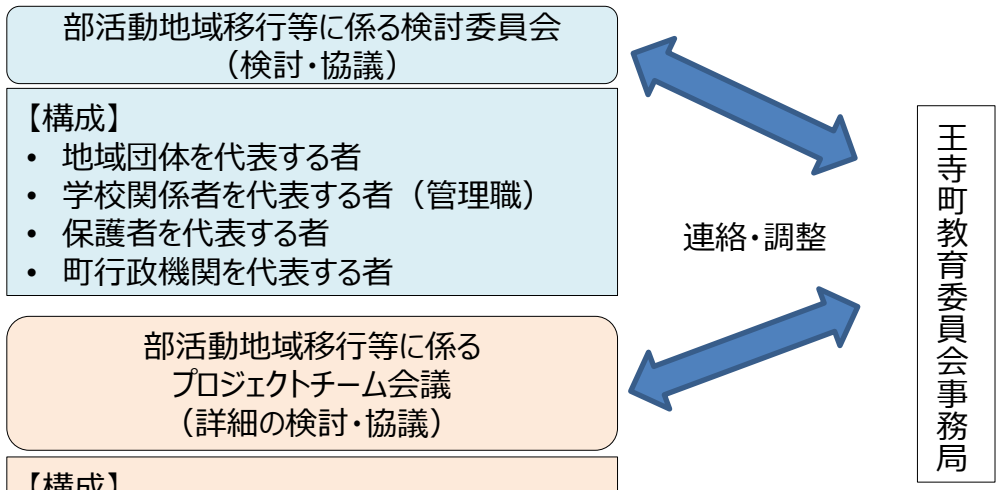
王寺町立王寺北義務教育学校

2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会
- 学校教育課…部活動改革の主幹、学校との調整・連携、学校に関する事項について
- 生涯教育課…総合型地域スポーツクラブやわらぎトラストの環境整備

◉首長部局
- 政策推進課…予算措置

年間の事業スケジュール

令和7年5月	部活動地域移行等に係るプロジェクト会議 部活動地域移行等に係る検討委員会
令和7年9月	部活動地域移行等に係るプロジェクト会議 部活動地域移行等に係る検討委員会 部活動地域移行等教職員説明会 （南義務）
令和7年10月	部活動地域移行等教職員説明会 （北義務） 部活動地域移行等保護者説明会 （南義務） 部活動地域移行等保護者説明会 （北義務）
令和8年1月	部活動地域移行等に係るプロジェクト会議
令和8年2月	部活動地域移行等に係る検討委員会 部活動地域移行等保護者説明会 （南義務） 部活動地域移行等保護者説明会 （北義務）
令和8年3月	部活動地域移行等に係るプロジェクト会議

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		2クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）		2クラブ（2部活動）
	B：部活動にはない種目など、新規の地域クラブ活動数		0クラブ
全体の指導者数	8人	全体の運営スタッフ数	9人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数（平日・休日）	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
卓球クラブ	町教育委員会	卓球	・休日　月1回	8:45～11:45	7年：4人 8年：11人 9年：0人	令和7年5月～令和8年2月	1人	2人（内、兼務0人）	0円	中体連：部活動
王寺BCクラブ	競技団体	バドミントン	・休日　週1回	①9:00～12:00 ②18:00～21:00	4年：1人 5年：2人 6年：4人 7年：2人 8年：4人 9年：0人	令和7年11月～令和8年2月	7人	7人（内、兼務0人）	400円/回	その他：地域クラブ

③その他、体験会やイベント等の開催実績

●特に実施せず

2.実証内容と成果

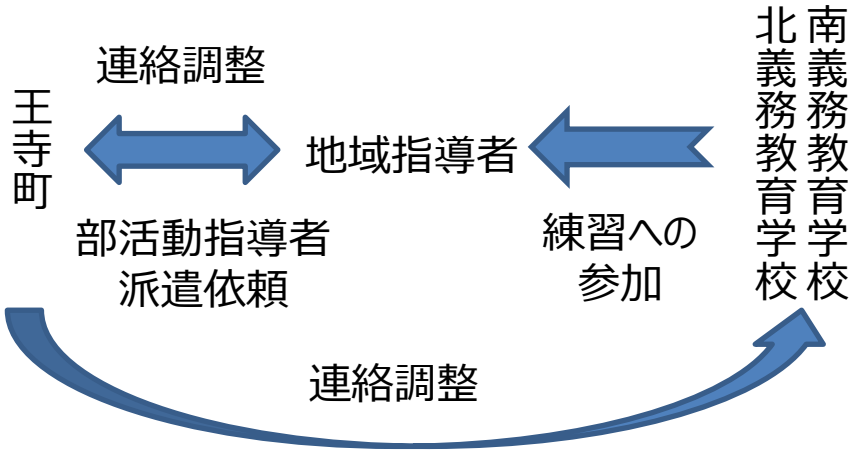
スポーツ庁

主な取組例

●卓球クラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	卓球
運営団体名	王寺町教育委員会
期間と日数	卓球：月1回程度
指導者の主な属性	会社員
活動場所	王寺北義務教育学校　中体育館
主な移動手段	徒歩または保護者による送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	個人負担なし
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●自治体

役割：指導者との契約を行う

●統括責任者

役割：計画・立案を行う

●主任指導者　1名

役割：生徒に対する技術指導を行う

2.実証内容と成果

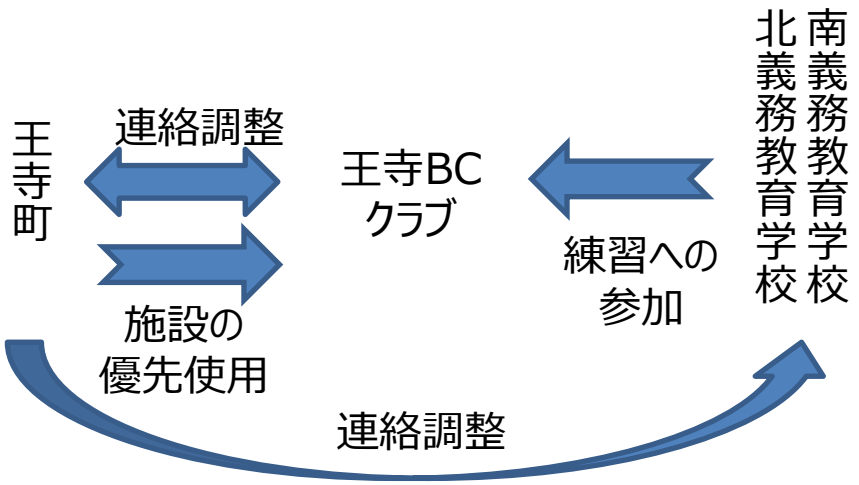
スポーツ庁

主な取組例

●王寺BCクラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バドミントン
運営団体名	王寺BCクラブ
期間と日数	バドミントン：週1回程度
指導者の主な属性	社会人・大学生
活動場所	・王寺アリーナ ・王寺南義務教育学校（太子学舎）他
主な移動手段	徒歩または保護者による送迎
1人あたりの参加会費等	400円/回
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒１人あたり：800円/年 指導者１人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●自治体

役割：施設を優先的に貸し出す

●統括責任者

役割：計画・立案を行う

●主任指導者　1名

役割：生徒に対する技術指導を行う

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 教育委員会と学校等の連絡・調整等を行うコーディネーターを配置した。コーディネーターを中心に、学校管理職、部活動の顧問等に部活動の地域移行に向けての課題などについての意見交換を行った。
- 部活動地域移行の実証事業に参加するとともに、定例教育委員会、校園長会、教頭主任会、生徒指導連絡協議会等で部活動の地域移行に向けて定期的に意見交換を行った。

今後の取組における課題

- 今年度は2種目だけの実施であったが、引き続き、生徒、保護者のニーズに応えた地域クラブの数を増やしていく必要がある。しかし、令和8年度からは県の方針により学校部活動へは教員が携わることができなくなるため、指導員の確保が最大の課題であるといえよう。今後も地域人材の発掘が必要となる。

取組の成果

- 奈良県においては令和5年度から7年度までを「改革集中期間」とし、休日の中学校部活動の地域連携又は地域移行を完了することを目標に、「中学校において令和8年度から教員の指導による休日の学校部活動を廃止する」との方向性は決定されている。この活動を通して、管理職をはじめ、部活動顧問に対しての意識づけに繋がり、具体的に考えるきっかけとなった。

課題への対応方針

- 生徒や保護者、学校関係者、部活動顧問、スポーツ関係団体等とともに、将来の部活動への危機感を共有し、教員の働き方改革に終わるのではなく、生徒たちの学校生活を送る上で、部活動の重要性を考えていく必要がある。

コーディネーターの具体的な動きの実績

- 各団体との協議
- 町内校長会との連絡会議
- 町内教頭会との連絡会議
- 総合型地域倶楽部との連携会議
- 保護者説明会の開催
- 学校との連絡調整
- 活動場所の調整

等

2.実証内容と成果

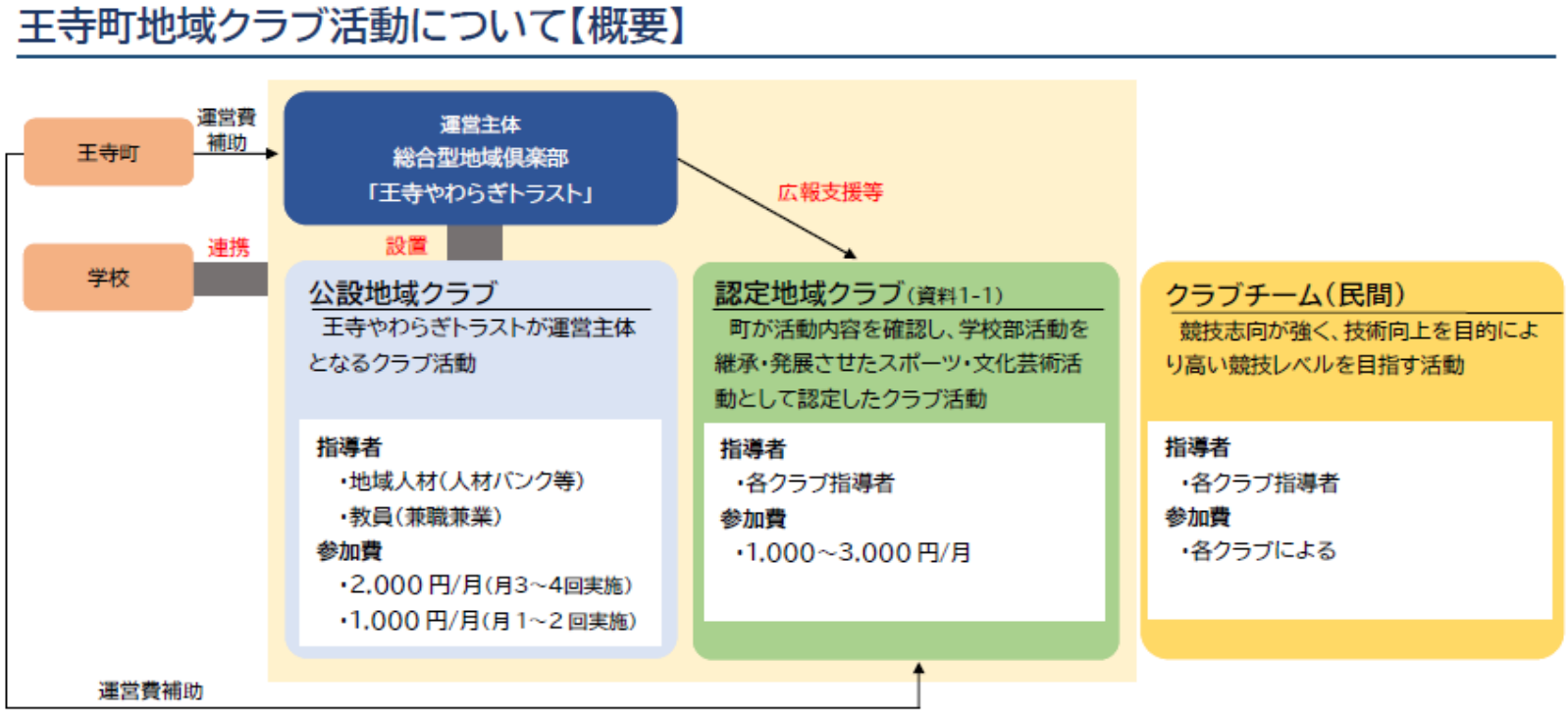
ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

● 部活動地域移行等検討委員会において、令和8年度移行の休日の地域クラブの運営方法等について検討を行った。
その結果、公設地域クラブを立ち上げ、総合型地域倶楽部「王寺やわらぎトラスト」が運営主体となる。
また、認定地域クラブについては、「王寺やわらぎトラスト」が広報支援等を行うとともに、王寺町は補助金等による活動支援を行う予定である。



2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

- 町人材バンクの設立・活用
- 総合型地域倶楽部「王寺やわらぎトラスト」との意見交換
- 教職員の地域指導者（兼職兼業）としての意向調査

取組の成果

- 卓球、バドミントンにおいて実証事業を実施することができた。卓球の指導者は生徒の年齢に近く、生徒目線に立った指導ができ、生徒たちも積極的に技術向上に努めていた。実施後の生徒たちへのアンケート結果では、次年度も実施されれば、「参加したい」と回答した生徒がほとんどであり、昨年に引き続き肯定的な意見が多かった。
- 参加者の心身の健康管理・事故防止を徹底し、生徒自身も楽しく活動していた。

今後の課題と対応方針

- 地域指導者の確保を教育委員会のみで行うことは困難なため、県の人材バンク、総合型地域倶楽部王寺やわらぎトラスト等、様々な機関を通じて指導者を確保する必要がある。
- 教職員が兼職兼業の許可を得て地域で指導する際に、本来の業務へ影響が生じることのないように、心身に過重な負担とならないように配慮する必要がある。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

- 競技スポーツ中心の学校部活動と余暇活動を中心の地域スポーツクラブへの指導内容等の違い等もあり、関係団体との連携強化については、卓球部・バドミントン部の実証事業以外においては、具体的に取り組むことはできなかった。

今後の課題と対応方針

- 本町における部活動の地域移行における方針を決定したうえ、指導者確保に向け、県の人材バンク、町の人材バンク、総合型地域倶楽部王寺やわらぎトラスト、民間スポーツ会社、部活動指導者等と連携していく必要がある。

●取組項目名　オ：内容の充実

取組事項

- 卓球部においては指導・競技経験が豊富な指導員を地域指導者として任用した。北義務教育学校を拠点として、南義務教育学校の生徒の参加も認めた。
- バドミントンにおいては以前より地域で活動している指導員を迎え入れ、生徒たちの競技力向上につなげることができた。施設利用としては町内にある体育施設を利用して、活動できた。

取組の成果

- 指導者からの技術指導は、生徒自らが考えてプレーできるように、ポイントを絞った指導を心がけてもらった。そのため、生徒たちは以前より自ら考え、進んで活動することができた。
- 生徒たちは競技力の向上だけでなく、お互いに助け合い、協力することの大切さを学ぶことができた。
- 楽しくプレーすることに重点を置き、活動を行ったことにより、アンケート結果からみても生徒たちからは好評であった。

今後の課題と対応方針

- 令和8年度からの休日の学校部活動の地域クラブ化を開始するにあたり、アンケート結果からも子どもたちの満足度は高かった。引き続き、学校、生徒・保護者・地域指導者との連携を図り、地域移行による部活動の内容の充実に取り組んでいきたい。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等

取組事項

●部活動地域移行検討委員会等で国から示された費用負担の目安を参考にしながら令和８年度以降の参加費用負担について検討・協議を行い、各校の保護者説明会において説明を行った。

●令和８年度以降の困窮世帯への支援についても国が示す基準に基づき支給できるよう事務局で検討を行った。

取組の成果

●令和8年度以降の参加費用負担を決定した。

－令和8年度以降の収支予定－

●収入

項目	費用
クラブ活動参加費	7,152,000円
生徒保険料	239,000円
公費（運営補助金）	7,049,000円
合計	14,440,000円

●支出

項目		費用
地域クラブ活動費		7,007,000円
	諸謝金（指導者）	6,720,000円
	生徒保険料	239,000円
	指導者保険料	48,000円
事務局運営費		7,433,000円
	人件費	5,052,000円
	その他（消耗品等）	1,068,000円
	一般管理費	1,313,000円
合計		14,440,000円

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

取組事項

- 王寺北義務教育学校の中体育館や王寺南義務教育学校の大体育館を活用した。
- 王寺北義務教育学校の施設・備品を利用した。
- 今回の実証事業においては学校施設・備品を使用したため、使用料は徴収しなかった。

取組の成果

- 各施設は、避難所にも使用できる冷暖房完備の施設である。そのため、部員たちの熱中症を心配することなく、快適に実施することができた。
- 日頃から生徒たちが使用している施設・備品であるため、特に利用にあたっては混乱はなかった。

今後の課題と対応方針

- 学校体育施設については、これまでも学校開放を行っており、地域運動部活動を実施する場としても活用が可能であるため、今後、休日の地域運動部活動の円滑な移行に向け、各組織・団体、学校等の間において調整・連携を図っていく必要がある。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

○ 令和7年度には「町立義務教育学校部活動地域移行等に係る検討委員会」を3回、「町立義務教育学校部活動地域移行に係るプロジェクトチーム会議」を3回開催した。また、実証事業を令和5、6年度の1種目（卓球部）から今年度は（卓球部、バドミントン部）の2種目にとどまった。種目が増えなかった大きな要因としては教員以外による指導者の確保ができなかったことにある。今後、県人材バンクのみに頼るのではなく、町の広報誌や町人材バンクをフル活用し、指導者の確保に努めていきたいと思う。また受皿となる町総合型地域倶楽部王寺やわらぎトラストからの指導者の推薦や部活動の指導を希望する教員が兼職兼業することでも人材の確保に努めたい。

○ 実証事業に参加した生徒の感想からもわかるように競技経験豊かな指導者からの指導は有意義なものでこれからも参加したいと思っている生徒は多かった。

●成果の評価

○ アンケート結果からもわかるように参加した生徒からは概ね事業に対して好評価は受けている。また、専門的な指導ができていたため、生徒・保護者からも好評であった。

○ 学校部活動の平日の指導者は教員で、実証事業の指導者は地域指導者であったが、何ら問題なく活動することができた。

●今後に向けて

○ 指導者については今後も県の人材バンクに頼るだけでなく、町独自のバンクによる人材確保に努めたい。

○ 教員の働き方改革がベースにあるため、基本的には休日の活動は地域指導者ということになるが、地域指導者による大会運営や生徒引率をどの程度行ってもらえるかが未知数である。

○ 補助金・人材の確保さえクリアできれば、教員の働き方改革の一端を担うことは可能になってくる。そのためにも補助金については首長部局との折衝により、また、人材確保については総合型地域倶楽部王寺やわらぎトラストとの連携により取り組む必要があると考えている。

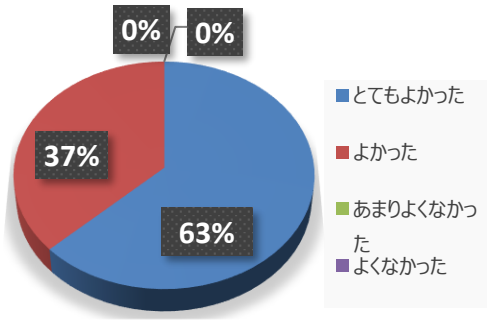
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

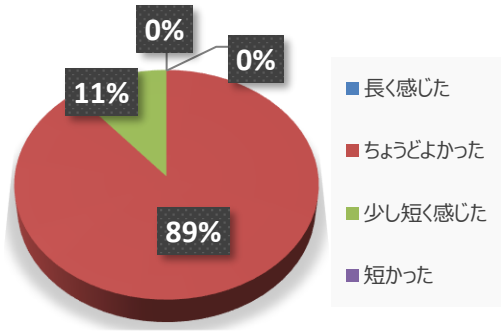
アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果

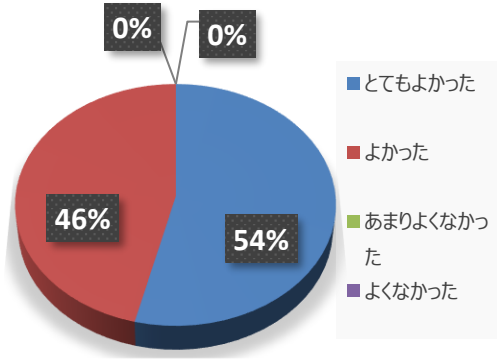
Q１.参加してよかったですか



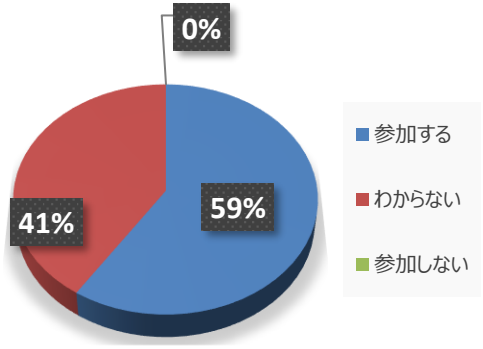
Q２.活動時間はどうでしたか



Q３.活動内容はどうでしたか



Q４.来年度も参加しますか



●参加者/関係者の声

義務教育学校8年生①

卓球のテクニックを例を出して教えてくれたので、とても分かりやすかったです。もう少し回数が多くてもいいと思った。

義務教育学校8年生②

教え方がすごくわかりやすくて、自分でも少しは上達できたと思えました。他校の人と打つ機会がめったにないので楽しかったです。

義務教育学校8年生③

今までは気づかなかったことを気づかせてくれてよかった。技のコツをわかりやすく教えてくれた。練習途中に簡単なゲームのようなことをしたりして、飽きずに最後までできる**の**が良かった。

地域指導者④

参加者すべてが積極的に練習に取り組めていて、充実した時間を過ごすことができた。これからも自分が持っているテクニック等を生徒たちに伝えていきたい。もう少し回数が多ければもっと生徒たちは上達できるように思えた。

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

参考資料



【練習風景（卓球）】



【ミーティング（卓球）】



【実技指導（バドミントン）】



【練習風景（バドミントン）】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和6年

協議会の設置、検討開始

受け皿団体や指導者の選定
生徒・保護者・教員へのアンケート実施

令和7年

学校現場との調整
教員への説明

生徒、保護者への説明

令和8年

休日の地域クラブ活動の開始

●ステークホルダー
地域団体の代表者
学校関係の代表者
保護者の代表者
町行政機関の代表者

●町立義務教育学校部活動地域移行等に係る検討委員会

●ステークホルダー
有識者
県教育委員会事務局担当者
学校管理職の代表者
学校部活動顧問代表者
総合型地域スポーツクラブ代表者
町教育委員会事務局

●プロジェクトチームの設置
●実施にあたって生じた課題
保護者への説明と理解

●ステークホルダー
PTA本部役員・運営委員等

●検討委員会での承認
●教員への最終説明
●保護者への説明と理解

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

令和6年度 → 令和7年度 → 令和8年度

- 検討委員会の設置
- プロジェクト会議の設置
- 地域移行に向けた実証事業
  （部活動指導員の活用・地域指導者との連携・拠点校部活動）
- 指導者の確保（町人材バンク）

- 教員の指導による休日の学校部活動を廃止
- 総合型地域クラブとの連携により運営体制を確保
- 認定地域クラブによる競技種目の確保